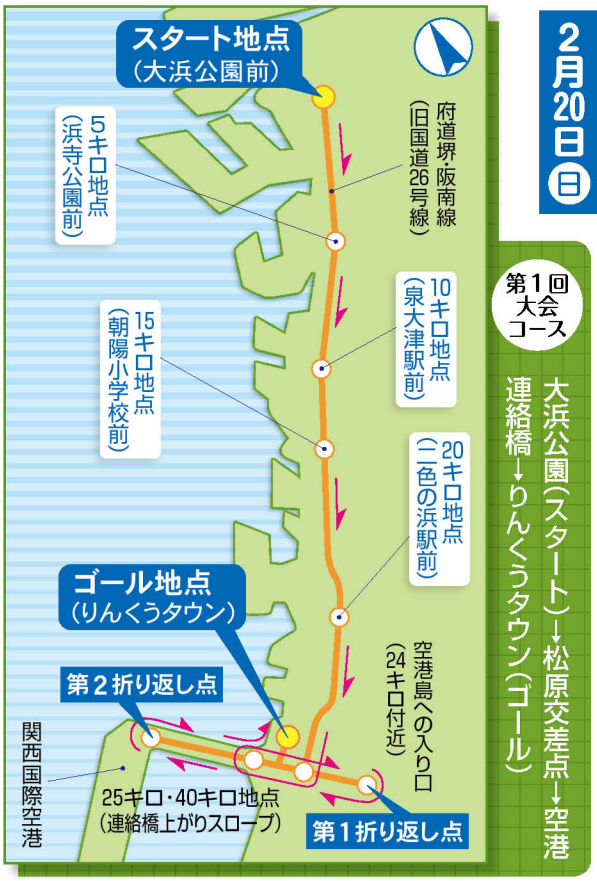
# 泉州国際市民マラソン 第1回大会 1994年（平成6年）

SENSHU INTERNATIONAL CITY MARATHON THE 1th CONVENTIONS




| 2月20日（日） | |
|---|---|
| 天　　候 | 曇り |
| 気　　温 | 9℃ |
| 参加者数 | 2,982人 |
| 完走者数 | 2,640人 |
| 沿道人数 | 65万人 |

1994年9月に開港する関西国際空港竣工を記念し、空港連絡橋の渡り初めイベントとして行われた「泉州国際市民マラソン大会」は、五輪マラソン優勝のチェルピンスキー（ドイツ）、ポール・バリンジャー（ニュージーランド）の外国選手のほか、宗猛、喜多秀善、姫野美佐子など、国内の招待選手を含め、そうそうたる顔ぶれが揃って開催された。

関西のタレントランナー高石ともや、間寛平、上岡龍太郎らの多彩な顔ぶれが、沿道を埋めた観衆の声援にこたえ力走した。また、往年の名ランナー・ニュージーランドのアリソン・ローらも記念大会に華を添えた。

国家的プロジェクトであった新空港開港記念として、秋篠宮ご夫妻のご臨席により、沿道には65万人の群衆が間断なく続き、3000人のランナーに熱い声援を送った。市民マラソンとしては、かつて例のない盛大な大会となった。

男子優勝の桑原和雄（NTT関西）は、先頭を行く吉川潔を31km過ぎの連絡橋でとらえ、逆転のレース展開であった。記念すべき第1回大会の優勝者、桑原和雄と黒崎しのぶ（大阪陸協）両選手は名だたる招待選手を相手に、開会式（前夜祭）での自信にあふれた言葉どおりの快走であった。新空港への連絡橋を走る1回限りの記念大会でもあり、全国各地から定員の3倍以上の、1万249人（外国人48人）の申し込みがあった。

沿道で声援をおくられる秋篠宮様ご夫妻

# 泉州マラソン成功させよう

## 結団式と事務所開き

岸和田

関西新空港の開港を記念し、来年二月二十日に三千人が堺・泉佐野の海岸四十二・一九五キロを駆け抜ける「泉州国際市民マラソン」（読売新聞大阪本社など後援）の事務所開きと事務局結団式が六日、岸和田市内のホテルで開かれた。

主催の実行委員会を組織する地元九市四町や府、泉州銀行、まちづくり市民グループ「泉州エアフロントフォーラム」などの担当者ら四十人余りが出席。一人ずつ自己紹介を行い、ビッグイベントの成功を誓い合った。

実行委員長の吉道勇・貝塚市長は「泉州が一つになって行う初の広域イベント。素人ばかりでよくここまで来たと感慨深い。しかし百里の道は九十九里をもって半ばとするといわれる。混成で臨時の組織だが、これからが始まりのつもりで頑張ってほしい」などとあいさつした。

事務局は岸和田市野田町の府泉南府民センター（072・4・36・3440）に開設。白水康雄・同センター所長を局長に、堺、岸和田、貝塚、泉佐野、熊取の四市一町の職員一人ずつが専従体制で臨む。

事務所開きの会合であいさつする実行委員長の吉道貝塚市長

1993年（平成5年）9月7日付朝刊

WIDE SPORTS ワイドスポーツ

# 42.195キロはどう測る？

## 道端から30センチ内側 カーブは最短距離

### 10人がかり、50メートルワイヤ使い

マラソンシーズンは最盛期。人気スポーツだけあって、日本陸連が公認したコースは100以上に上る。関西国際空港開港を記念して開かれる「泉州国際市民マラソン（読売新聞大阪本社など後援）」。2回の対面を前に、こちらも公認コースの仲間入りを果たした。アップダウンにS字カーブ。特徴を生かしながら、「42.195キロ」はどのように計測して、設定されるのだろうか――。

新たにマラソンコースをつくる場合、実施事務局の申請に基づき、各都道府県陸協の検定員が計測、設定する。計測の道具は直径五センチのワイヤ。あらかじめ日本陸連が指定したメジャーをあてて、「五十メートル」に計測するかで数値が変わきずると熱を持って伸びるので、「最短距離」で測ることがあり、正確な距離をつかめない。このため、路面に触れないよう約十人がかりで持ち運び、移動しながら計測していくわけだ。

一般道路の場合は、側溝、路肩などの道端から三十センチ内側が基本。急なカーブなどでは、両端のどちらに沿い分の長さが刻んである。引に計測するかで数値が変わるので、「最短距離」で測るよう心がける。

ワイヤを使う方法では、ゴールラインから測り始め、距離がうまく収まるように調整、最後にスタート地点を決めるのが一般的。

測定の結果、「四二・一九五キロ」を下回れば〝不合格〟。逆に上回った場合は、一キロにつき一メートルオーバーまでを許容範囲として、「四十二メートルプラスまでなら「OK」とされる。これは、検定員によって「最短距離」の取り方が微妙に変わってくるためで、その分の幅を持たせたからだ。

ワイヤ以外では、カウンターを積んだ自転車での計測方法がある。

## 泉州国際市民マラソン

### 18時間かけコース検定

空港連絡道後半の難所

泉州国際市民マラソンのコース検定は、昨年十二月中旬、大阪、京都陸協の検定員が二日がかり、約十八時間かけて行った。スタート地点の堺市大浜公園前（泉佐野市）のゴールが決まっていたので、空港連絡道路に設定した二カ所の折り返し点のポイントを調節、距離をあわせた。

スタートから旧国道二六号線を南下する。起伏の少ないなだらかなコースが、空港連絡道路（二五・六キロ地点）に差しかかると一変する。目の前に急な上り坂。これを上がり切ると、大阪湾が眼下にあり、抜群の眺めだが、スタート地点を「0メートル」とした時、連絡道路上の高低差はプラス四十メートルにも達している。

コースをチェックした大阪陸協の検定員、仲田秀三さんは「ここは、旧国道沿いの歴史を感じる町並みと、近代的な海上空港。沿道の景色はすばらしいが、空港連絡道路がレースのポイントとなりそう。疲れもピークのころだし、選手にとっては厳しいと思う」と記している。

イラスト・串井　徹男



1994年（平成6年）2月17日付夕刊

ご挨拶される秋篠宮殿下

SENSHU INTERNATIONAL CITY MARATHON

空港島を折り返し、
連絡橋を走るランナー

# 走った！"夢の未踏橋"

## 泉州国際市民マラソン

一斉にスタートする約3000人の市民ランナー

## 宗猛に食らいつき快挙 桑原

市民ランナーと五輪の金メダリスト、ボストンなど世界のマラソンの覇者が肩を並べて走ったワンウエー・コースの「泉州国際市民マラソン」。二十日、空港開港が迫る泉州路に約三千人のランナーがひと足早い春を運んだ。

朝のうち、一時小雨がパラついたものの、気温9度、北東の風1・5㍍と、絶好のコンディション。スタート直後から招待選手の宗猛（旭化成）が先頭に立ち、ペースを作った。

しかし、15㌔付近で宗はリタイア。その後、桑原和雄（NTT関西）、吉川潔（大体大）が競り合い、約10㌔近く並走。25㌔地点の空港連絡橋の上り坂で桑原がスパートし、そのまま逃げ切った。女子は、地元出身の黒崎しのぶ（岸和田・山滝中教）が独走。二位の姫野美佐子（旧姓宮原、旭化成）に4分47秒差をつけて優勝した。

表彰式では、男女の三位までに「よみうり三社賞」（読売新聞、読売テレビ、報知新聞）が贈られた。

三千人のトップを切ってゴールを駆け抜けた桑原は「大レースのチャンピオンの方々と一緒に走れたうえ、記念の大会に優勝できるなんて……」。

15㌔まで、かかとに故障を抱える宗猛が、途中でつぶれるのを覚悟でレースを引っ張ったが、桑原だけが、この5㌔、16分を切るペースにも最後までスタミナを失わなかった。

25㌔付近の新空港への連絡橋にかかる上りで首位に立つと、あとは一人旅。折り返し点を過ぎると「頑張れよ」と、すれ違う走者から声を掛けられた。"市民マラソン"ならではの光景に「いい大会だなと思いました」と顔をほころばせたが、さすがに最後の5㌔はきつく「早くゴールに着きたいばかりでした」。

大阪・堺市在住で、地元泉北高校出身。これまで主に駅伝で活躍し、本格的にマラソンに取り組んだのは昨年から。この日のタイムは三年前のびわ湖毎日マラソンで出した2時間19分36秒を破る自己ベストだ。

（辰巳裕文）

## 教え子の声援が励ましに 黒崎

「たくさんの声援を受け、楽しく走れた」。女子優勝の黒崎しのぶは、勝因に教え子らの励ましを挙げた。

体調は最悪だった。一月三十一日の大阪国際女子から、わずか二十日後のフルマラソン。しかも、右ふくらはぎの肉離れなどで、四日前には一歩も走れなくなった。二日前にようやく回復したが、「一か八か」の挑戦だった。

太ももから足首までテーピングした右足は、3㌔過ぎからしびれ始めた。このため「岸和田（15㌔）まで行こう」と、地元を目指した。ここで黒崎に活力を与えたのは、卒業生らの声援。「先生頑張れ」という沿道からの声に、力がわいた。

選手を苦しめた空港連絡橋のアップダウンも、前半ペースを落としていたことが幸いし「思ったより風がなく、ながめが良かった」と、苦にならなかった。

レース前は「完走出来るか難しい状態」だったのに、大阪国際女子を3分近く上回る好タイムでの優勝。声援の後押しに感謝した。

（北野正樹）

### 3時間切れた

兵頭勝代（女子3位）「10㌔付近から右足にまめができたけど、3時間を切れたし自信になった。春のトライアスロン大会に向けていい練習になった」

### 楽しく走れた

チェルピンスキー（男子18位）「昔なら、残り5㌔から相手に差をつけたのに、きょうは、ここからペースダウンした。でも、楽しく42・195㌔を走れた」

声援に手を上げてこたえる18位のチェルピンスキー

### 視点

## エリート観戦より共に参加

### 沿道に人波 高まるマラソン熱

「日本のマラソンにかける情熱をあらためて感じた」。五輪の金メダリスト、チェルピンスキーは、走り切った感想をこう表現した。いくぶんの外交辞令は含まれているにしても、沿道から、なにかしら伝わってくるものがあったのだろう。

連絡橋は別として、すきまなく声援を送った五十五万人の人の波。男子二位の喜多秀喜も「東京マラソンでも、こんな経験はなかったですよ」。

昭和三十六年に、今回のコースの一部を使ったマラソンで、あのはだしの王者、アベベ・ビキラ（エチオピア）が優勝したことがある。懐かしくて沿道に足を運んだ人もいるかもしれないが、最大の要因は、別のところにあるように思える。

日本では、エリートランナーが大都市を駆け抜けるレースばかりが注目されてきた。だが、ランニングブームとともに、市民ランナーの底辺が広がり、一握りのトップ選手だけの大会偏重に疑問を投げかける声が出てきている。

エリート選手と市民ランナーが一緒に走り、地元ボランティアがはぐくむボストン、ロンドン、ニューヨークマラソン。こうした大会が今も人気があることを考えさせられた。

（高倉祐司）

1994年
（平成6年）
2月21日付朝刊

## 多彩なイベント企画

泉州国際市民マラソンの総務企画部のイベントの企画では、多彩な取り組みを行ってきた。主にゴール会場の広場で、様々なイベントを行い、多くの来場者が楽しんでいる。

大会当初は地域の物産展の他、優勝タイム当てゲームが毎年行われた。先頭ランナーがゴールするまでに投票券に優勝予想タイムを書き込み応募した。第１回大会の当選者には、豪華プレゼントとして「グアム島４日間」の旅行券や自転車、スキー板･ウエアー、２万円の食事券、絨毯などの豪華賞品が贈呈された。その他、「国際交流村」のブースでは、さまざまな屋台が出され、餅つきやスポーツ用品、Ｊリーググッツなどの販売で賑わった。また、ガンバ大阪のＪリーグ選手がミニサッカーで子供たちを指導して人気を集めた。

その後の大会では、ジョギング教室が行われ、大勢の市民が有名選手とランニングで汗を流した。その他、遊戯施設「ふわふわ」が置かれ、家族連れの子供たちの人気を集めていた。また、物産展や協賛企業の出店のほか、ランナーに抽選により景品がプレゼントされている。毎年行われているサービスでは、無料のコーヒーコーナーや自衛隊員による豚汁とおにぎりのサービスは評判がよく、フイニシュして疲れきったランナーにはまたとないプレゼントであった。20回大会では自衛隊員に変わって地元のボランティアが協力した。その温かい豚汁のもてなしは大好評であった。

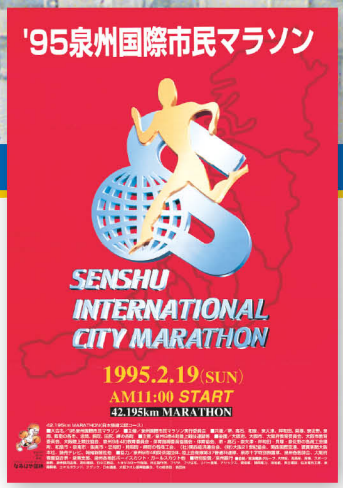
**優勝**
第1回大会

男子
NTT関西
桑原和雄

女子
岸城中学教員
黒崎しのぶ

## 泉州国際市民マラソン 第2回大会

SENSHU INTERNATIONAL CITY MARATHON THE 2th CONVENTIONS




# 阪神淡路大震災のため中止

**1995年（平成7年）2月19日㊐**

1995年（平成7年）1月17日5時46分、阪神淡路を震源とする巨大地震が発生、マグニチュード7.2の激震は大阪南部をも揺るがし、阪神地区ではビル家屋の倒壊、高速道路まで倒れるという未曾有の大災害であった。住居の倒壊のほか、大規模な火災により、死者6433名、家屋の倒壊11万7,489棟（消防庁発表）の深刻な大災害となった。阪神・淡路への救済や物資の輸送で大喧騒の中、日本国中必死の救援対策に迫われた。

大会事務局は2月19日の開催に向け、新しいコースの公認手続きをとり、マラソン大会の準備がほぼ整った大詰めの段階であった。大会備品の発注・納入、プログラムの印刷の時期ではあったが急遽、関係代表者会議がもたれ、1月26日、大会の中止が決定された。参加料は申し込み者全員に全額返却された。

第1回大会を華々しく開催したあと泉州地方最大のイベントとして、「マラソンを継続しよう」との熱き思いが結実したが、抽選による当選者のほか1年間準備をしてきた関係者及び事務局員は、断腸の思いであった。